

① 2018年末の高齢者の大掃除実態

- ・高齢者の2018年末の大掃除実施率は50.5%。「体力的な負担」などの理由で半数が未実施。
- ・「高所の掃除」に不安を感じる高齢者が多数。家族の助けやプロによるハウスクリーニングを上手に活用しよう！

高齢者の2018年末の大掃除実施率は50.5%で、男性に至っては半数を下回る実施率（48.8%）となりました。年末年始の習慣としてや日常掃除の補完として大掃除に取り組む高齢者がいる一方、約半数の高齢者は「普段こまめに掃除をしている」ことや「体力的な負担が大きい」ことから、年末大掃除を実施しなかったという結果が分かりました。

高齢者に、**還暦を過ぎてから掃除に負担を感じるようになった場所と理由**について尋ねたところ、**上位3カ所は「レンジフード・換気扇」（49.5%）、「窓・網戸」（35.5%）、「浴室」（32.2%）**となりました。**理由は、「イスや脚立を使った、高所の掃除に不安を感じる」（61.3%）が最も高く、次いで「面倒になった」（48.6%）**という結果となりました。

12月は、掃除中に高齢者が高所から転落するケースが多く発生しています。高所の掃除に不安を感じる場合は、ご家族やプロにハウスクリーニングを依頼するのほひとつの手段です。

図1：2018年末の高齢者の大掃除実施率

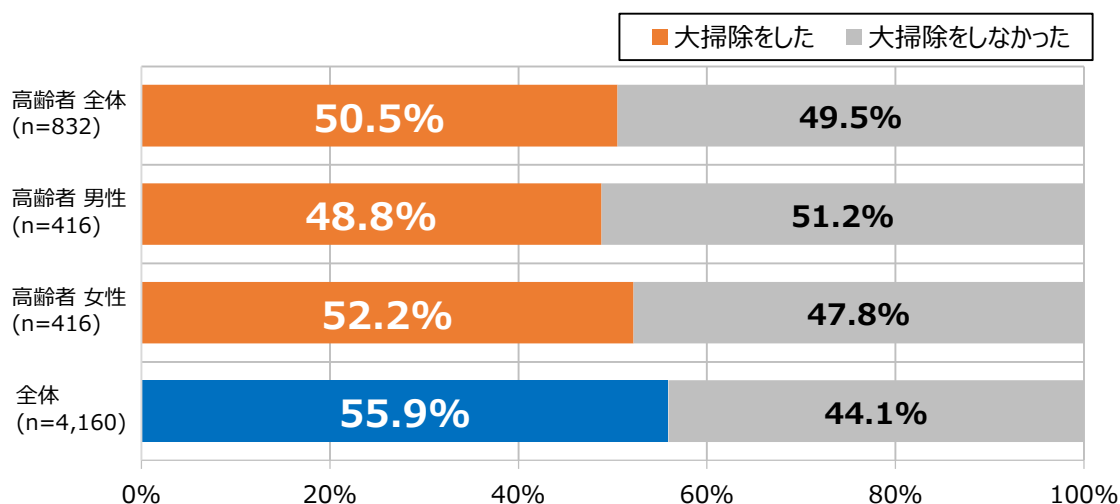


図2：掃除に負担を感じる場所(上位5カ所)

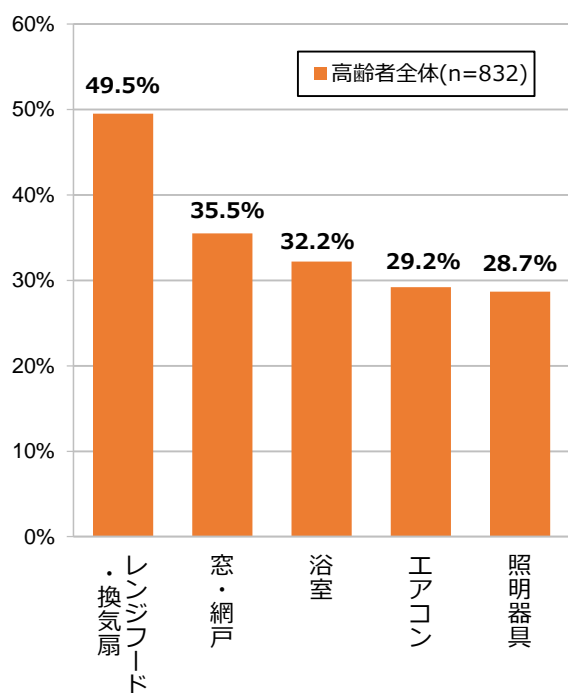
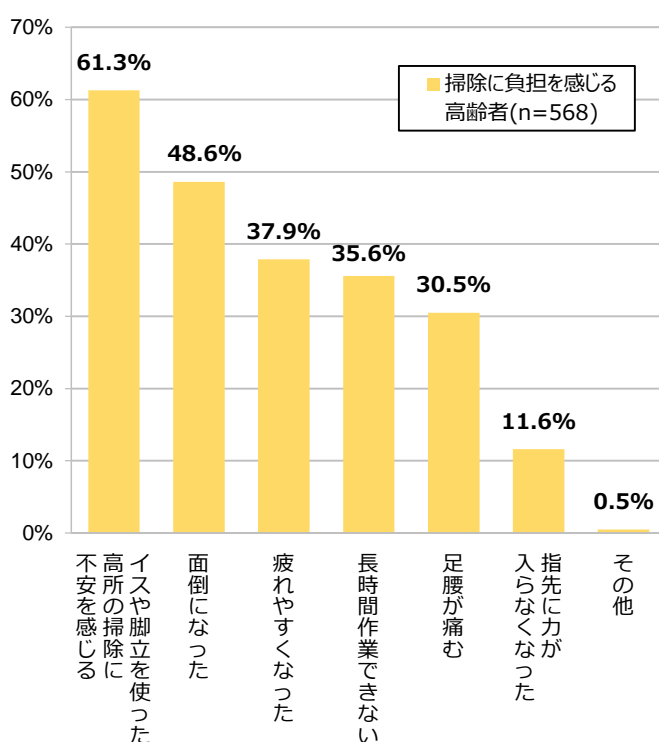


図3：掃除に負担を感じる理由



② 実家の大掃除や片付けの実態

- ・2018年は、10人に1人が「実家の大掃除や片付けを手伝った」と回答。
- ・実家の大掃除で困ったことは“作業の大変さ”や“親とのコミュニケーション”。

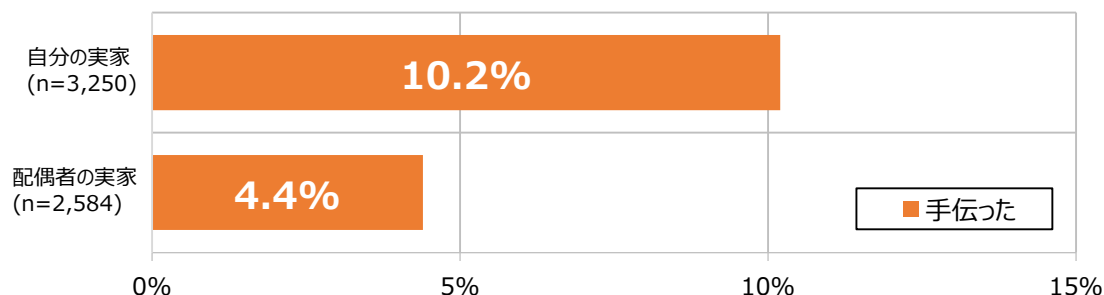
親と別居している人を対象に、実家の大掃除や片付けを手伝ったか聞いたところ、**2018年の1年間で10人に1人が「実家の大掃除や片付けを手伝った」と回答**しました。また手伝った月を聞いたところ、自分の実家・配偶者の実家ともに「12月」と「11月」の順で多く挙げられました。

手伝った際に困ったことでは「物が多い」「要・不要の判断がつかない」「掃除道具が足りない」など作業の大変さや不自由さを挙げる人が多く、さらに配偶者の実家の場合は「気を遣う」など、親とのコミュニケーションの難しさを挙げる声もありました。

近年、高齢化が進む中で“毎日を清潔で安全な住まいで生活してほしい”“親が大切にしている物を親が元気なうちに確認しておきたい”などの目的で、実家の大掃除や片付けが注目されています。

ぜひ、清潔で安全な住まいづくりについて親子で一緒に考える時間を、年末年始につくってみませんか。

図4：2018年に、実家の大掃除や片付けを手伝った割合



<実家の大掃除や片付けをされていて困ったこと>

自分の実家で困ったこと

- どこまでキレイにすればいいか加減が分からない。(男性 49歳)
- 道具が足りない。(男性 67歳)
- 物が多い。(女性 22歳)
- 使いたい洗剤が無い。(女性 45歳)
- やり方が違うので自分の家の掃除より時間がかかった。(女性 66歳)

配偶者の実家で困ったこと

- 気を遣って疲れた。(男性 48歳)
- 自由に片付けられない。(女性 25歳)
- 物の配置が分からないので一つ一つ聞きながら片付けしなければならぬのが大変。(女性 35歳)
- 断捨離するつもりで手伝いに来たが結局捨ててくれない。(女性 46歳)
- 勝手が分からなかった。(女性 54歳)
- 気を遣って好きに掃除ができない。(女性 61歳)

【 調査 概 要 】

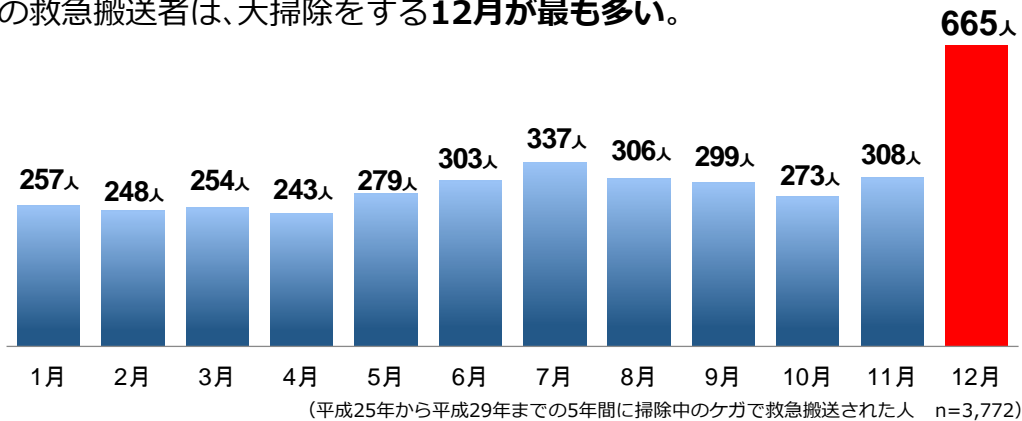
- 調査目的 : 2018年末の大掃除についての意識・実態把握
- 調査対象 : 20歳以上の男女
- 調査地域 : 全国(エリア区分：北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州)
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 2019年1月25日(金)～1月26日(土)
- サンプル数 : 4,160サンプル〔うち高齢者(60歳以上)832人〕
※全データに対してn数30未満のものは参考値として記載

<参考> 東京消防庁「掃除中の事故による救急搬送状況」

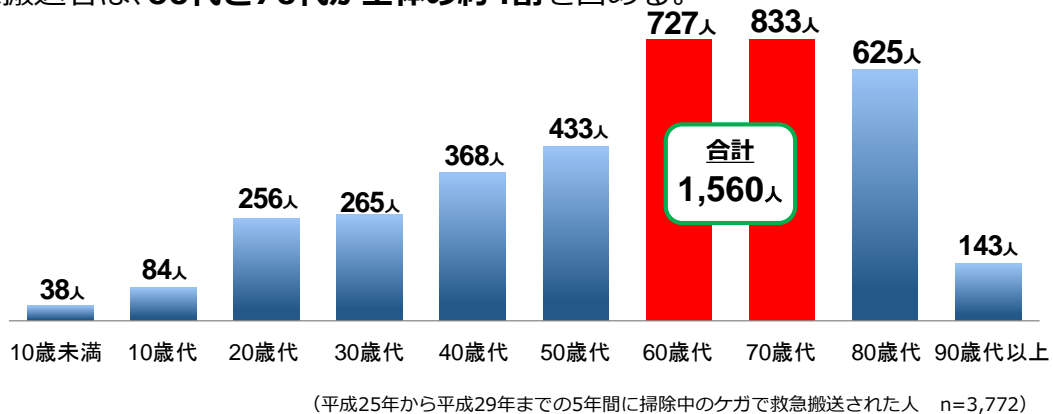
東京消防庁によると、掃除中のケガによる救急搬送者は12月が最も多く、60代・70代が全体の約4割を占めています。また、「居室や寝室」で“ころぶ”や「脚立・踏み台・足場」から“落ちる”事故が多い状況です。

高齢者が大掃除をする際は、安全確保を第一に取り組みましょう。特に高所の掃除では脚立を使ってバランスを崩さないようにしましょう。

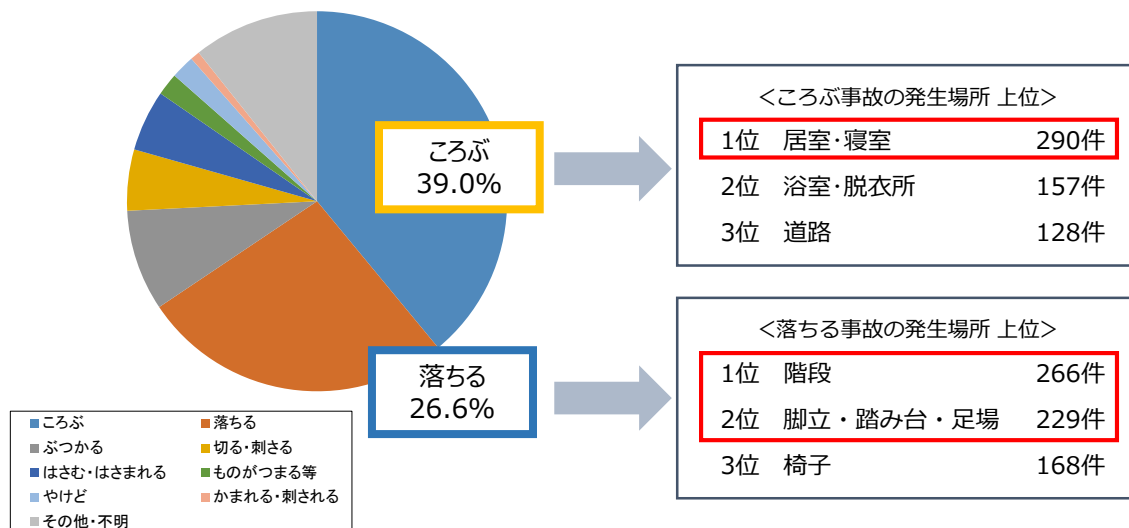
- 平成25年から平成29年までの5年間で、掃除中のケガによる救急搬送は**3,772人**。
- 月別の救急搬送者は、大掃除をする**12月が最も多い**。



- 救急搬送者は、**60代と70代が全体の約4割**を占める。



- 多いケガは「居室・寝室」で“ころぶ”、「階段」「脚立・踏み台・足場」から“落ちる”。



(平成25年から平成29年までの5年間に掃除中のケガで救急搬送された人 n=3,772)